

2016年3月期決算および

新中期経営計画説明会

2016年5月13日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社
代表取締役社長 穂川 稔



- 2016年3月期 連結決算の概況
- 2017年3月期 連結業績予想
- 研究開発パイプラインの状況
- 長期ビジョン「HOPE100」実現に向けた取り組み
 - ・中期経営計画「HOPE100－ステージ1－」(2010～2015年度)の総括
 - ・新中期経営計画「HOPE100－ステージ2－」(2016～2019年度)について

2016年3月期 連結決算の概況

2016年3月期 連結決算の概観

(単位:億円)

	15年3月期 実績	16年3月期 実績	対前年		対予想 (15年5月13日発表)	対修正予想 (16年2月3日発表)
			増減額	増減率(%)	増減額	増減額
売上高	1,131	1,195	+64	+5.6	-7	-7
営業利益	147	196	+49	+33.2	+36	+2
経常利益	155	200	+45	+29.1	+37	+3
親会社株式に帰属 する当期純利益	121	136	+15	+13.1	+21	+6

過去最高の売上高と利益(営業利益、経常利益、当期純利益)となりました

セグメントの売上高の増減(連結)

(単位:億円)

	15年3月期 実績	16年3月期 実績	対前年		対 予想 (15年5月13日発表)	
			増減額	増減率(%)	増減額	
売上高	1,131	1,195	+64	+5.6	-7	
	1,118	1,182	+64	+5.8	-4	
医薬品事業	新医薬品	921	983	+62	+6.7	+26
	国内	911	927	+16	+1.8	-20
	海外	10	56	+46	+441.3	+46
	後発医薬品	155	155	0	-0.1	-27
	一般用医薬品他	42	45	+3	+7.3	0
ヘルスケア(スキンケア)事業	13	12	-1	-7.8	-4	

	対前年増減額	増減のポイント	対予想増減額 (15年5月13日発表)	増減のポイント
国内新医薬品	+16	・キプレス、フルティフォームが伸長 ・ムコダイン、ペンタサが減少	-20	・キプレス、ムコダイン等の売上が予想を上回った ・フルティフォーム、ペンタサ等の売上が予想を下回った
海外新医薬品	+46	・ライセンス契約一時金(FPR2作動薬プログラム等)が増加	+46	・ライセンス契約一時金(FPR2作動薬プログラム等)を計上
後発医薬品	0	・他社受託の売上は減少したが、自社販売の売上は増加	-27	・他社受託売上および自社販売の売上が予想を下回った

損益の概要(連結)

(単位:億円)

	15年3月期 実績	16年3月期 実績	対前年		対予想 (15年5月13日発表)
			増減額	増減率(%)	増減額
売上高	1,131	1,195	+64	+5.6	-7
売上原価	466	474	+8	+1.6	-
販売費及び一般管理費	518	525	+7	+1.4	-
R&D費	135	130	-5	-3.7	-4
販管費(R&D費除く)	383	395	+12	+3.1	-
営業利益	147	196	+49	+33.2	+36
経常利益	155	200	+45	+29.1	+37
親会社株式に帰属する当期純利益	121	136	+15	+13.1	+21

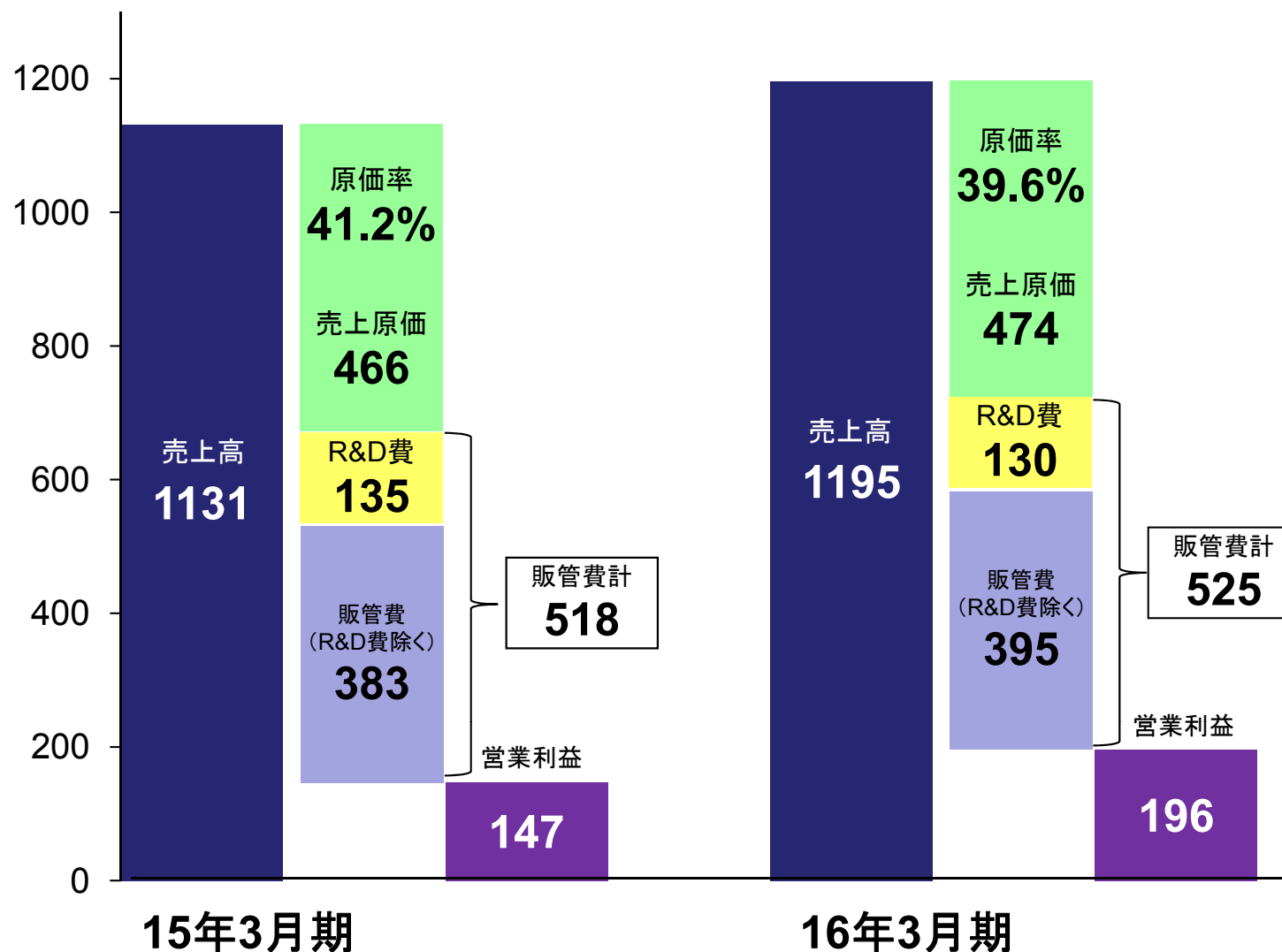
	対前年 増減額	増減のポイント	対予想 増減額	増減のポイント
営業利益	+49	<ul style="list-style-type: none"> ▶売上総利益の増加(+56億円) •キプレス・フルティフォームの増収、ライセンス契約一時金 •原価率は1.6ポイント低下 ▶R&D費の減少(-5億円) •わたらせ創薬センター開設費用(減価償却費、移転費用)が増加したものの、KRP-114Vの費用等が減少 ▶販管費(R&D費除く)の増加(+12億円) •特許等使用料、販売費、一般経費等の増加 	+36	<ul style="list-style-type: none"> ▶売上総利益の増加 •主なものとしてライセンス契約一時金の増加 ▶R&D費の減少(-4億円) •KRP-114Vの共同開発等に関する契約締結による減少等

<16年3月期の特別損益について>

- ▶特別利益19億円：杏林製薬㈱の旧東京支店ビル(東京都新宿区)の土地・建物の譲渡益等
- ▶特別損失31億円：杏林製薬㈱の岡谷工場閉鎖に関わる損失等

2016年3月期 業績のポイント(対前年)

(単位:億円)



【ポイント】

- 売上高は前年比64億円増
 - ・主力製品の売上増 (キプレス、フルティフォーム等)
 - ・ライセンス契約一時金
- 売上原価率は1.6%低下
- 売上総利益は前年比56億円増
- 販管費は前年比7億円増
 - ・R&D費は5億円減
 - ・販管費(R&D費除く)は12億円増
- 営業利益は前年比49億円増

2016年3月期 主力製品の売上状況

(単位:億円)

	15年3月期 実績	16年3月期 実績	対前年		対予想 (15年5月13日発表)
			増減額	増減率(%)	増減額
キプレス	412	441	+29	+6.9	+23
フルティフォーム	36	72	+36	+99.8	-31
ウリトス	73	75	+2	+2.8	-4
ムコダイン	140	130	-10	-7.3	+12
ペンタサ	172	161	-11	-6.1	-10

株主還元について

中期経営計画「HOPE100－ステージ1－」における基本方針

成長のための投資、事業継続のための投資、株主還元をバランスよく実施し、経営基盤の強化を図ります。株主還元は配当性向30%を目処に実施します。

【親会社株式に帰属する当期純利益の推移】

	2016年3月期(予想)	2016年3月期(実績)
親会社株式に帰属する 当期純利益	115億円	136億円

【配当の推移】

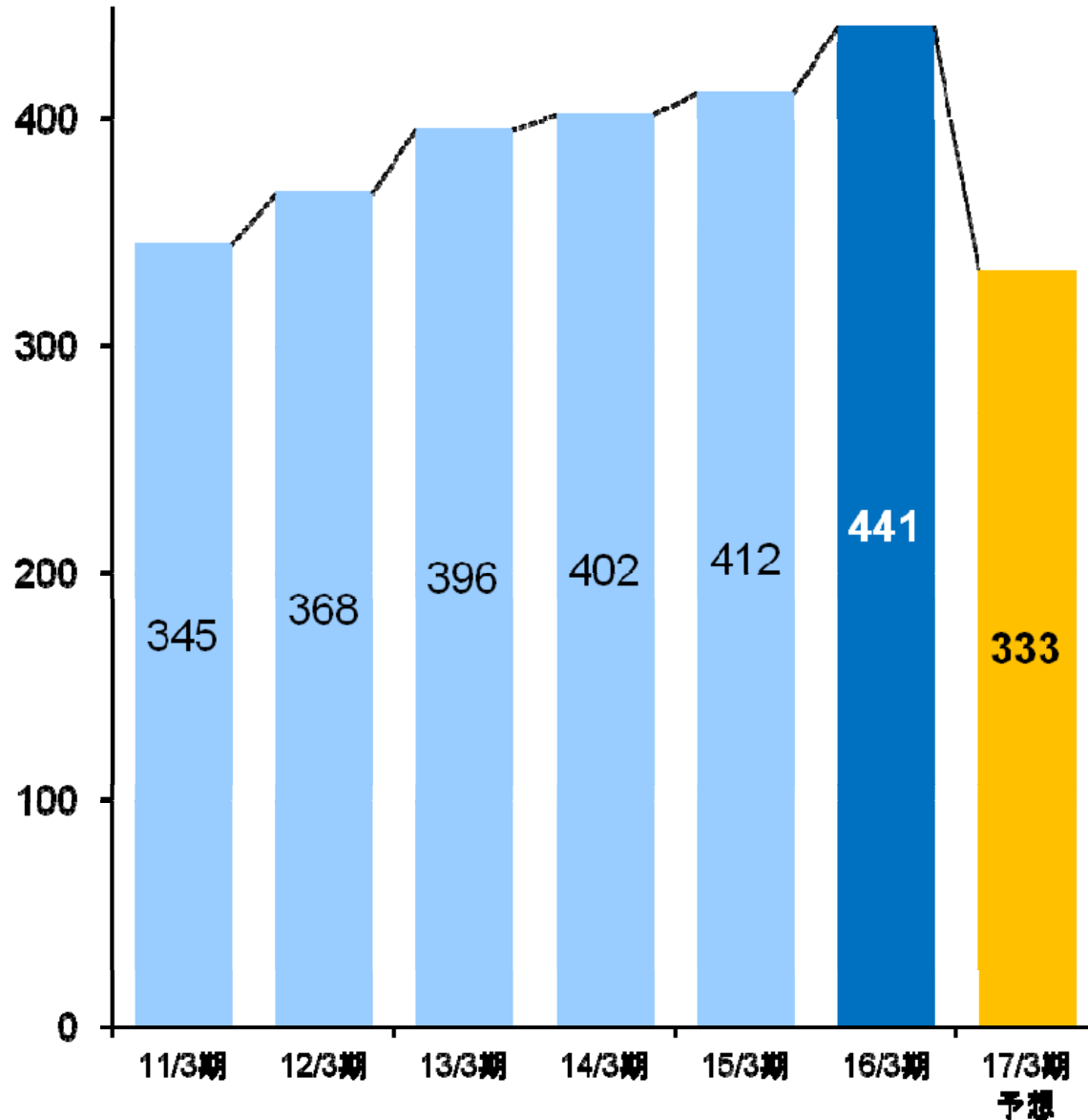
	2016年3月期(予想)	2016年3月期(実績)※
1株当たり配当金	52円(うち中間20円)	58円(うち中間20円)
連結配当性向	33.8%	31.8%

※期末配当38円につきましては、5月24日に開催される取締役会で決定する予定です

主力製品の取り組みについて

■新薬群 キプレス(気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)

売上高 (単位:億円)



■16年3月期(2015年度)の状況

- ロイコトリエン拮抗剤市場：4.8%拡大
1,262億円(15年3月MAT) ⇒ 1,322億円(16年3月MAT) 注1
- キプレスの売上シェア
37.6%(15年3月MAT) ⇒ 38.6%(16年3月MAT) 注2
- ◆アレルギー性鼻炎で処方拡大、チュアブル・細粒の売上増加

■17年3月期(2016年度)の取り組み

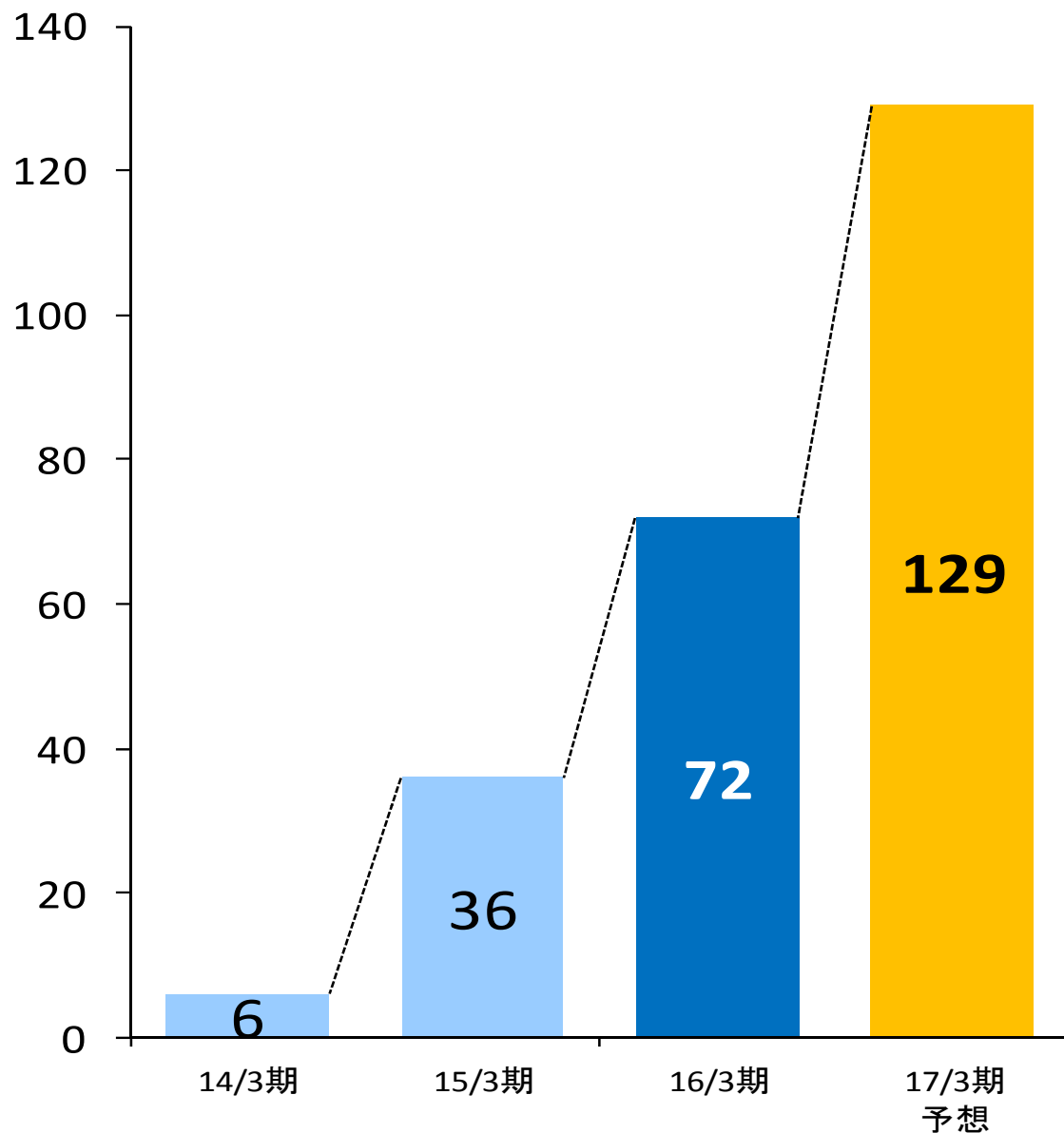
- オーソライズド・ジェネリックを発売(予定)
・特許切れに伴いジェネリック医薬品の発売を想定

※薬価改定率(本体薬価ベース) ▲8.3%

注1,2(出典: Copyright 2016 IMSヘルス IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止)

■新薬群 フルティフォーム(喘息治療配合剤)

売上高 (単位: 億円)



■16年3月期(2015年度)の状況

- ICS/LABA配合剤：11.4%拡大
971億円(15年3月MAT) ⇒ 1,082億円(16年3月MAT) 注1
- フルティフォームの売上シェア
3.8%(15年3月MAT) ⇒ 7.4%(16年3月MAT) 注2

■17年3月期(2016年度)の取り組み

- 新規採用及び高需要先におけるシェアの拡大
- コントロール不十分な喘息患者さんへの処方推進
 - ・エアゾール製剤(pMDI)の有用性・簡便性を訴求
 - ・服薬アドヒアランスの向上に繋がる情報提供

pMDI: 加圧噴霧式定量吸入器 (pressurized metered-dose inhaler)

※薬価改定率(本体薬価ベース) ▲0.2%

注1,2(出典: Copyright 2016 IMSヘルス IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止)

- ・製造販売承認申請(MSD(株)、2015年10月)
- ・2016年内の製造販売承認の取得(MSD(株))および上市を目指す

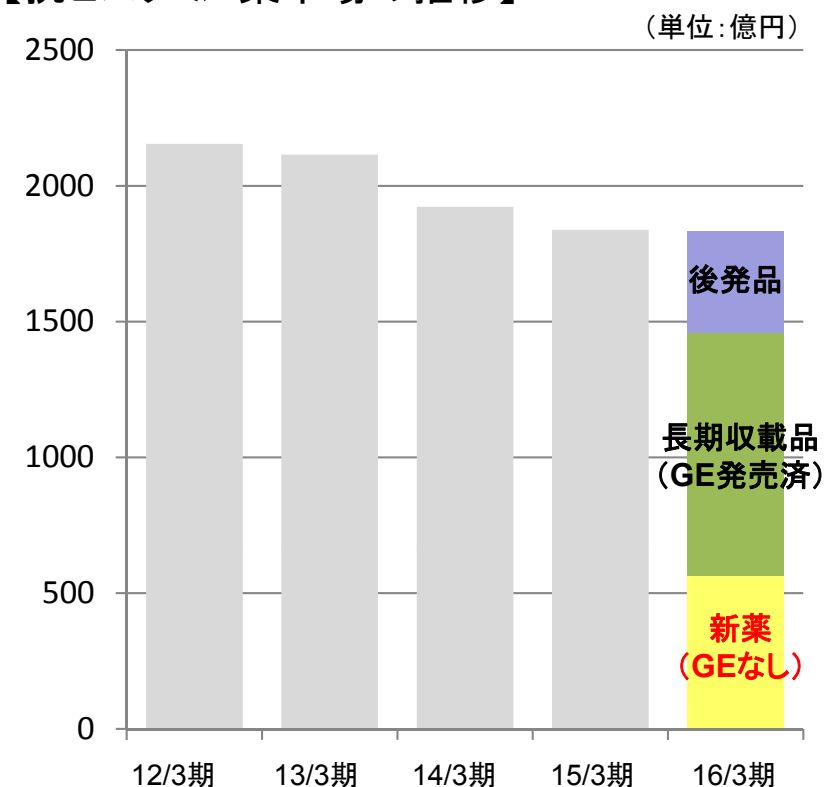
【申請内容】

薬効 : 第2世代ヒスタミンH1受容体拮抗薬
有効成分 : デスロラタジン
効能・効果 : 「アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症)に伴うそう痒」の適応症で申請中
用法・用量 : 1日1回
販売方法 : 杏林製薬(株)とMSD(株)で併売(1ブランド2チャンネル)

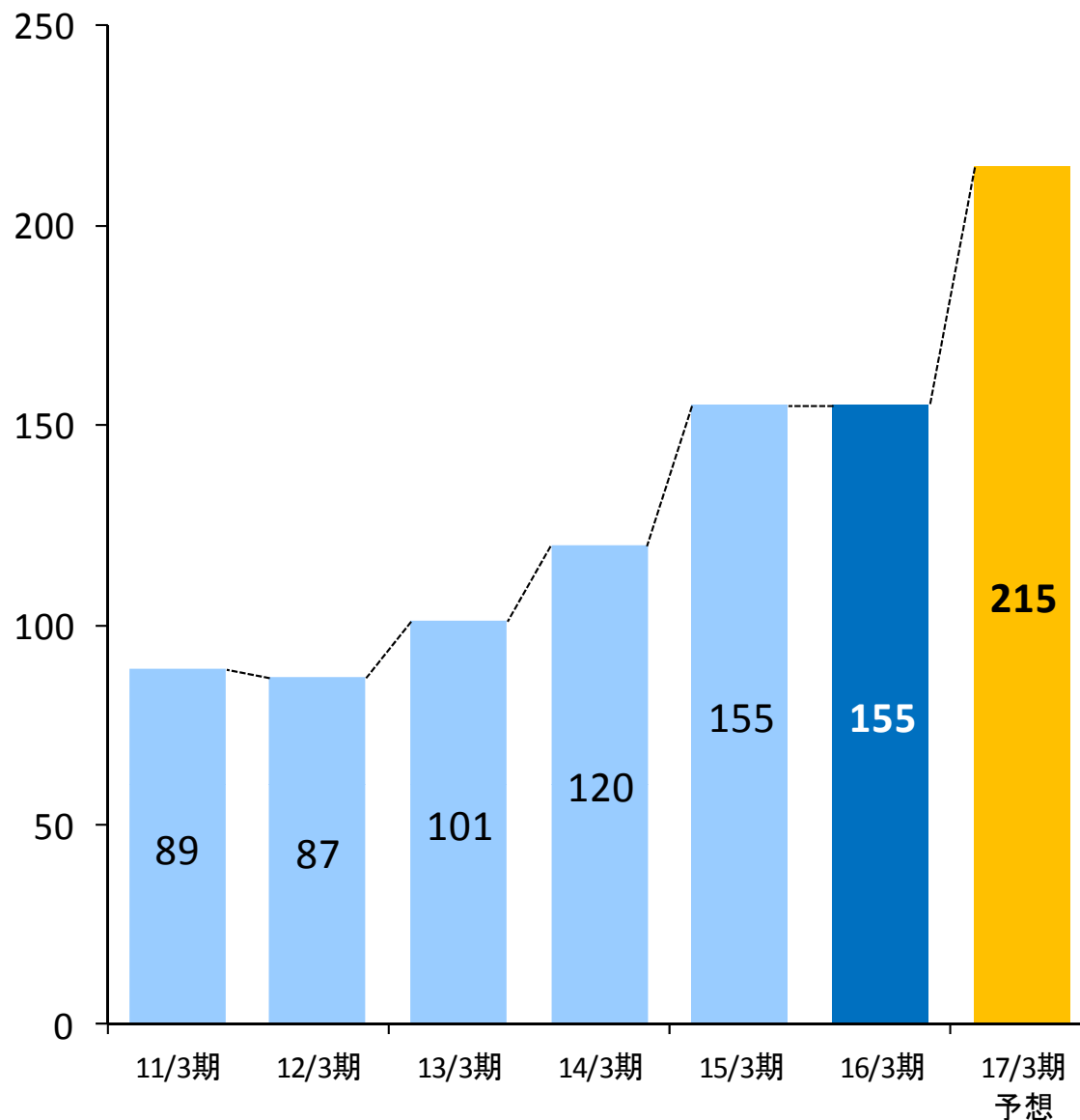
【特長】

- ・ヒスタミン受容体との高い親和性を有するとともに、中枢への移行が低い
- ・有効性と安全性のバランスの取れた、新規の第2世代抗ヒスタミン薬

【抗ヒスタミン薬市場の推移】



売上高（単位：億円）



■ 16年3月期(2015年度)の状況

- 自社販売の売上が増加(前年比約7%増)
 - ・15年度は追補品としてクロピドグレル等、7成分15品目を発売
- 他社受託の売上が減少

■ 17年3月期(2016年度)の取り組み

- モンテルカストAGの取り組み
 - ・薬価収載(6月想定)後、販売体制が整い次第、発売を予定
 - ・ジェネリック医薬品市場内でのシェア50%以上の獲得を目指す
- 重点品、新規追補品の売上拡大
 - ・16年6月追補予定品：オランザピン等
- 主導的共同发展の推進
 - ・共同開発先の見極めによる受託ビジネスの継続

2017年3月期 主力製品の売上予想

(単位:億円)

	2016年3月期 実績	2017年3月期 予想	対前年	
			増減額	前年同期比(%)
キプレス	441	333	-108	-24.3
フルティフォーム	72	129	+57	+78.4
ウリトス	75	78	+3	+5.0
ムコダイン	130	108	-22	-16.7
ペンタサ	161	158	-3	-1.7
デスロラタジン(一般名)	—	19	+19	—
後発医薬品	155	215	+60	+39.0

2017年3月期 連結業績予想

2017年3月期 連結業績予想

(単位:億円)

	16年3月期 実績	17年3月期 予想	対前年		
			増減額	増減率(%)	
売上高	1,195	1,200	+5	+0.4	
	1,140	1,140	0	+0.0	
医療用医薬品事業 ※	985	924	-61	-6.2	
	新医薬品				
	国内	929	885	-44	-4.8
	海外	56	38	-18	-32.0
	後発医薬品	155	215	+60	+39.0
ヘルスケア事業 ※	55	60	+5	+8.9	
営業利益	196	145	-51	-26.2	
経常利益	200	149	-51	-25.5	
親会社株式に帰属する当期純利益	136	107	-29	-21.5	




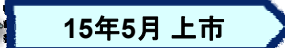
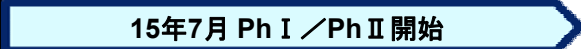
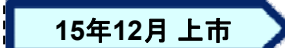










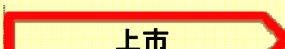

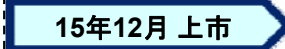
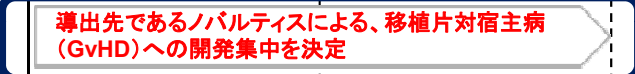
※売上高のセグメントにおける内容を2017年3月期より変更します。

変更後の「医療用医薬品事業」の内容は新医薬品・後発医薬品で、「ヘルスケア事業」はスキンケア・環境衛生・一般用医薬品他で構成しています。

【参考】 対前年のポイント： ①売上原価率は前年比で約3%上昇、販管费率(R&D除く)は前年比で1%弱上昇
②R&D費用は135億円を見込む(2016年3月期:130億円)

研究開発パイプラインの状況

開発パイプライン： 2015年度の進捗状況と2016年度の取り組み(予定)

	製品名・開発コード	Ph I	Ph II	Ph III	申請	承認・上市
呼吸器	エクリラ ジェヌエア					 15年5月 上市
	Ad-SGE-REIC	 15年7月 Ph I / Ph II 開始				
	キプレスOD錠					 15年12月 上市
感染症	KRP-AM1977X			 15年4月 Ph III 開始		
	KRP-AM1977Y			 16年3月 Ph III 開始		
耳鼻科	KRP-209		 15年8月 Ph II (再)			
	デスロラタジン MSDと共同販売契約締結				 15年10月 MSD申請	 上市
泌尿器	KRP-114V					
IBD	ペンタサ顆粒94%					 15年12月 上市
	KRP-203	 導出先であるノバルティスによる、移植片対宿主病 (GvHD) への開発集中を決定				

※FPR2作動薬プログラム：BMS社とライセンス契約を締結(2015年12月)

※KRP-AB1102F：AstraZeneca社とのライセンスを解消し、AstraZeneca社に開発権及び販売権を返還しました(2016年2月)

 15年度の進捗

 16年度の取り組み

<FPR2(Formyl peptide receptor) 作動薬プログラムについて>

- 作用メカニズム：主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す
(Gタンパク質共役型受容体アゴニスト)
- 導出契約：米国BMS社に対するライセンス供与(2015年12月)

全世界での独占的な権利(開発権、製造権、販売権)をBMS社に供与。BMS社は本プログラムの対象とする適応症(非開示)において、開発を進め、早期の上市を目指す

- 契約条件：
 - ・契約一時金:35百万米ドル(約43億円) 15年12月受領済
 - ・開発から承認までの進展に応じたマイルストーンペイメントを受け取る(最大で370百万米ドル)
 - ・売上に対する一定率のロイヤリティ及び販売マイルストーンを受け取る

<「KRP-203」について>

- 作用メカニズム：スフィンゴシン-1-リン酸(S1P)受容体アゴニスト
- 導出契約：ノバルティスに対するライセンス供与(2006年2月)

ワールドワイドで実施した各種臨床試験の結果を基に、競合品及び優先度等を考慮して、GvHD(移植片対宿主病)を対象とする開発に集中することを決定。開発を本格化する

- 臨床試験の状況：

現在、血液がんのため造血幹細胞移植を受ける患者さんを対象としたPh I 試験が進行中。
症例数をトータル30例とし、KRP-203の安全性・有効性・薬物動態について、検討を行っている

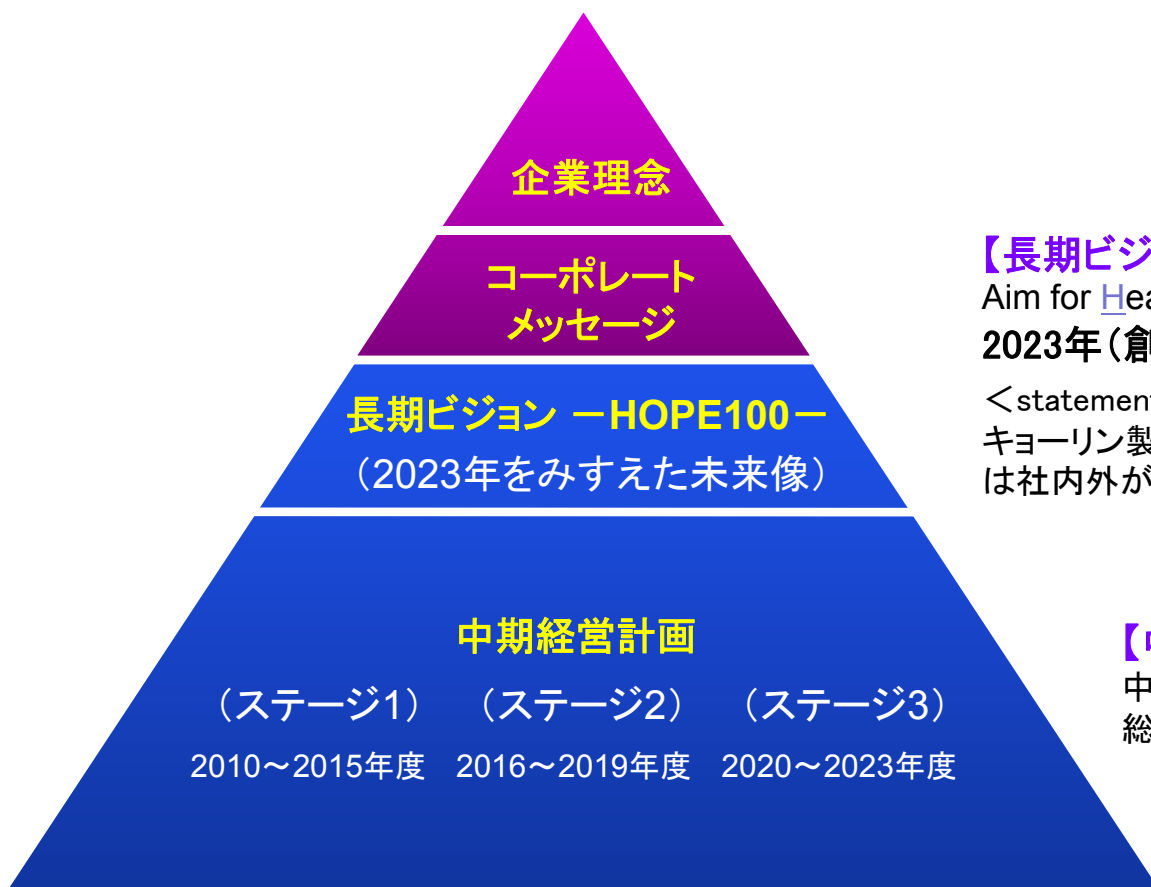
中期経営計画「HOPE100－ステージ1－」
(2010～2015年度)の総括

1) 企業理念 (キョーリン製薬グループの恒久的な使命および事業目的)

キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します

2) コーポレートメッセージ (企業理念を社内外に伝えるメッセージ)

健康はキョーリンの願いです



【長期ビジョン「HOPE100」】

Aim for Health Of People and our Enterprises

2023年(創業100周年)をみすえたキョーリン製薬グループの未来像

< statement >

キョーリン製薬グループは、ヘルスケア事業を多核的に展開・発展させ、2023年には社内外が認める健全な健康生活応援企業へと進化します

【中期経営計画】

中期的期間におけるグループ経営の基本方針、到達目標などを総合的に取りまとめたもの

「ステージ1」のStatement

長期ビジョン達成に向けた、事業編成と各事業推進体制の構築・推進力の向上

【事業戦略】

▶医療用医薬品を複合的に展開する新たな医薬事業モデル(PCモデル:Pharma Complex Model)の構築・推進

- ・わたらせ創薬センター開設(15年7月)による探索研究と開発研究の集約と総合力の発揮
- ・新製品の発売: フルティフォーム(13年11月)、エクリラ(15年5月)
- ・導出: FPR2作動薬プログラムをBMSへ導出(15年12月)、KRP-203(Novartis)はGvHDでの開発に集中(15年11月)
- ・導入: アクリジニウム(11年2月)、KRP-114V(14年7月)、デスロラタジン(14年11月)
- ・岡谷工場の生産機能をキョーリン製薬グループ工場(株)へ移転(16年9月に岡谷工場閉鎖予定)
- ・フランチャイズカスタマー(FC)戦略の深耕による主力製品の普及の最大化
- ・キプレス、ウリトスの伸長
- ・主導的共同開発の推進による他社受託の売上増、自社販売の売上拡大によるジェネリック事業の成長

▶ヘルスケア事業の育成・再編と新規事業創出による事業多核化への挑戦

- ・環境衛生事業へ参入(11年4月)、ルビスタ発売(12年7月)

【組織化戦略】

- ▶グループ各社の社員が働きがいNo.1と実感できる企業づくり

【成果目標】

▶経営の健全化とステークホルダーの期待への応答

- ・成長のための投資、事業継続のための投資、株主還元をバランスよく実施
- ・配当性向30%を目処に配当を実施

「ステージ1」の出口目標における成果

(単位:億円)

	2010年3月期
	実績
売上高	998
医薬品事業	910
新薬群	329
先発品群	495
後発品群	86
ヘルスケア事業 ※1	87
営業利益	133

2016年3月期		
目標	実績	差異
1,400	1,195	-205
1,200	1,140	-60
500	589	+89
500	396	-104
200	155	-45
200	55	-145
200	196	-4

※1 スキンケア・環境衛生・一般用医薬品他で構成

<配当金の推移>

	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期※2
1株当たり配当金	45円(中間10円)	45円(中間10円)	50円(中間10円)	52円(中間10円)	52円(中間20円)	58円(中間20円)
連結配当性向	30.8%	36.4%	30.1%	32.3%	32.2%	31.8%

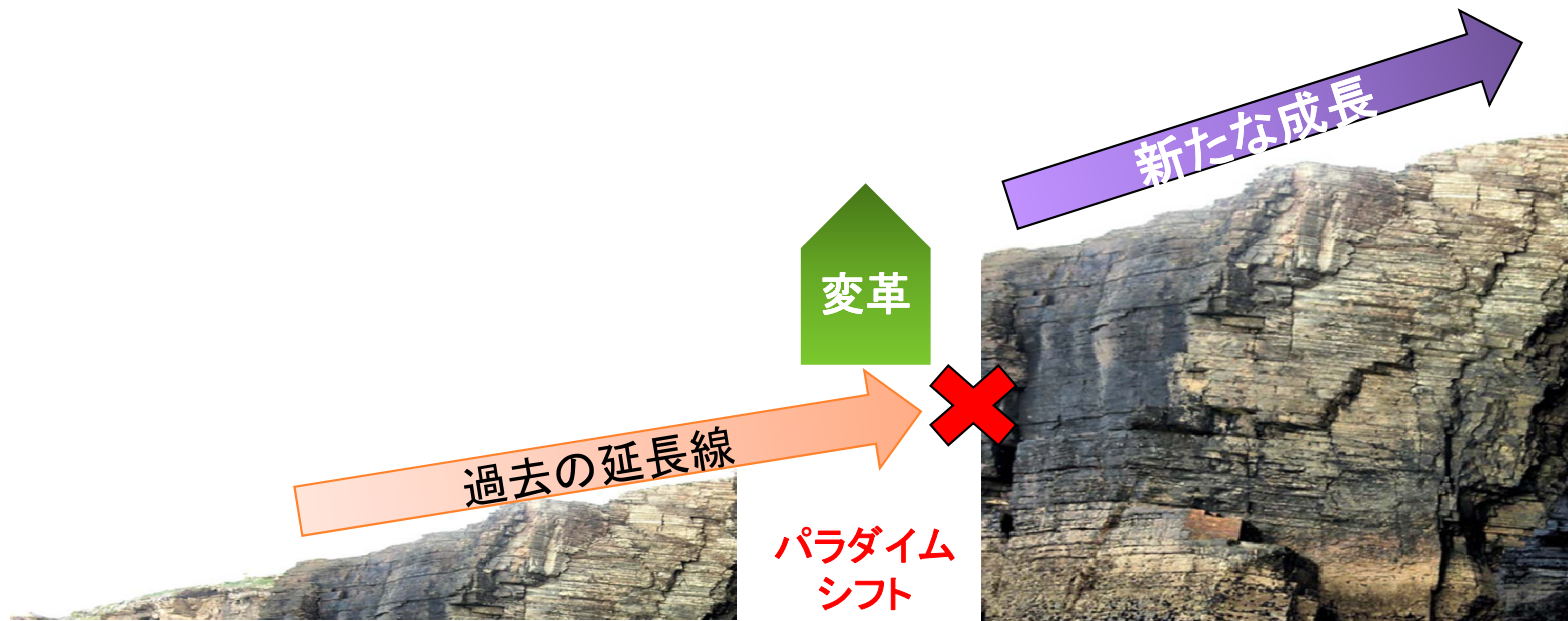
※2 期末配当38円につきましては、5月24日に開催される取締役会で決定する予定です

新中期経営計画「HOPE100－ステージ2－」
(2016～2019年度)について

- ジェネリック80%時代の到来
- 3年連続薬価改定の可能性
- 当社グループは、「キプレスのパテントクリフ」を迎える

今までに経験したことのない大きな変化が、非常に早いスピードで迫ってくる

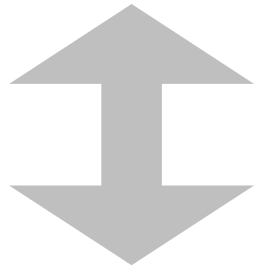
これらを乗り越えるためには、過去の延長線上ではなく
「変革」を行い、新たな成長を目指す



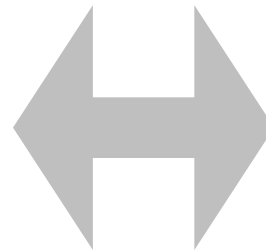
「ステージ2」のStatement

長期ビジョン実現に向けて、変革(変化と革新)を行い、持続成長を図る

事業戦略
(Strategy)



組織化戦略
(Organization)



成果目標
(Performance)

ファースト・イン・クラス創薬への取り組み

■ 継続的に革新的な新薬を生み出す体制の構築

- ・FC(フランチャイズカスタマー)領域※における新奇(ノーベル)な創薬ターゲットを見出す
- ・低分子をベースにした既存の創薬プラットフォーム(キナーゼ、受容体)と新技術(ペプチド、遺伝子治療など)の活用により、ファースト・イン・クラスの新薬を創出する
- ・オリジナル新薬のグローバルな展開と開発の加速化に向け、グローバルなパートナーとの早期の提携を目指す

※ FC(フランチャイズカスタマー)領域 : 呼吸器科・耳鼻科・泌尿器科

新薬群の普及の最大化による新薬群比率の大幅な向上

・新薬群の取り組み強化により、2019年度には「50%以上」までに向上させる

■新薬群の伸長により、減収要因を越えていく

- ・4つの製品を上市させ（デスロラタジン、KRP-AM1977X/Y、KRP-114V）、フルティフォームと併せて製品普及の最大化を目指す

■営業体制の再構築

- ・FC戦略に基づくエリアマネジメントの再構築に取り組む

「ステージ2」での上市を目指す4製品



デスロラタジン

第2世代ヒスタミンH1受容体拮抗薬

- ・ヒスタミン受容体への高い親和性を有するとともに中枢への移行が低い
- ・有効性と安全性のバランスに優れる

抗ヒスタミン薬市場
約1,800億円

ラスクフロキサシン

キノロン系合成抗菌剤

- ・グラム陽性菌から陰性菌及び非定型菌までの幅広い抗菌スペクトラムを示す
- ・嫌気性菌に対しても類剤と比較し強力な抗菌活性を有する
- ・優れた組織移行性により、高い臨床効果が期待される
- ・高い安全性(血糖値異常、光線過敏症、消化器症状他)が期待される

抗菌剤(経口)市場 約1,900億円
抗菌剤(注射)市場 約1,300億円

ビベグロン

選択的β3アドレナリン受容体作動薬

- ・従来の過活動膀胱治療薬と比較して、副作用が少なく、服薬コンプライアンスが高まることが期待される
- ・β3受容体作動薬として、薬物相互作用が少ない
- ・本剤が分類されるβ3作動薬は、過活動膀胱治療におけるファーストラインとなる可能性がある

OAB市場
約800億円

※MSD(株)と共同販売契約を締結
(2014年11月)

※キッセイ薬品工業(株)と共同開発・共同販売
に関する契約を締結(2016年3月)

自社で開発、生産、販売を行い、かつグループ内で新薬を取り扱うメリットを生かし、機動的な事業展開を行う

■オーソライズド・ジェネリック(AG)の積極的な取り組み

- ・モンテルカストAGのジェネリック医薬品市場内での高いシェア獲得を目指す
- ・モンテルカストAGに続く、新たなAG獲得を検討する

■キョーリン リメディオ(株)の事業推進力の強化

- ・自販力の強化
- ・製剤開発力の強化
- ・製造体制の強化

グループ内最適化による、コスト構造の変革

■ グループ内生産の協業による全体最適化

- ・新薬群、先発品群、後発品群の枠を越え、適切な場所で製造を行う
(会社の枠も越える)
- ・工場稼働率の平準化と資産の効率活用

グループ生産拠点

杏林製薬(株)
能代工場
(秋田県)



新薬群、先発品群、後発品群

キョーリン Remedio(株)
井波工場
(富山県)



キョーリン製薬
グループ工場(株)
(滋賀県)



杏林製薬(株)
岡谷工場
(長野県)



全ての生産機能を移転し、閉鎖
(2016年9月予定)

■ 海外進出

- ・パートナーリングにより、自社で創出した革新的な新薬のグローバル展開(欧米への早期導出)を推進し、海外売上の獲得を実現する
- ・他社との協業を通じて、アジアを中心に将来の直接的進出(医療用医薬品およびヘルスケア事業)の礎を築く

■ ヘルスケア事業

- ・環境衛生事業を成長させ、既存事業との連携を強化し、核となる事業を作り上げる

社員が働きがいNo.1と実感できる企業を目指す

■ 人材マネジメントシステムの構築・運用

- ・社員と会社の長期にわたる互恵的な協力・共生関係を原点とした、新たな人材マネジメントシステムを構築・運用する

■ 人材育成の強化

- ・マネジメント力*の強化に取り組む

* 広義のマネジメント：仕事を通じた、社員を活かすための働きかけ

■ 数値目標

- ・連結売上高は年平均成長率3%以上、連結営業利益率15%以上を目指す

■ 資本政策

- ・健全な財務基盤を維持する中で、成長投資と安定的な株主還元が両立する資本政策とする
- ・株主還元は、安定的な配当を目指す
17年3月期の1株当たり配当金(予想) : 58円(うち中間20円)

■将来見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

参考資料

➤ 損益計算書の概要	P.38～39
➤ 貸借対照表の概要	P.40
➤ 主な業績項目の推移	P.41
➤ 杏林製薬(単体)資料	P.42～45
➤ セグメント情報	P.46
➤ 2017年3月期 連結業績予想	P.47
➤ 主要製品売上の状況	P.48
➤ 研究開発費・設備投資・減価償却費の状況	P.49
➤ 開発品一覧	P.50～52

損益計算書の概要：連結①

(単位:百万円)

	15年3月期		16年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	113,121	100.0%	119,483	100.0%	+5.6	+6,362
医薬品事業	111,771	98.8%	118,238	99.0%	+5.8	+6,467
◆新医薬品	92,111	81.4%	98,282	82.3%	+6.7	+6,171
○国内	91,079	80.5%	92,695	77.6%	+1.8	+1,616
○海外	1,032	0.9%	5,586	4.7%	+441.3	+4,554
◆後発医薬品	15,477	13.7%	15,465	12.9%	-0.1	-12
◆一般用医薬品他	4,183	3.7%	4,490	3.8%	+7.3	+307
ヘルスケア事業	1,349	1.2%	1,244	1.0%	-7.8	-105

<当期のポイント>

対前年

- 売上高 **119,483百万円 (+6,362百万円)**
- 国内新医薬品 **92,695百万円 (+1,616百万円)**

	15.3実績		16.3実績	(億円)
・キプレス	412	⇒	441	(+29)
・フルティフォーム	36	⇒	72	(+36)
・ウリトス	73	⇒	75	(+2)
・ムコダイン	140	⇒	130	(-10)
・ペンタサ	172	⇒	161	(-11)
- 海外新医薬品 **5,586百万円 (+4,554百万円)**
 - ・ライセンス契約一時金(FPR2作動薬プログラム等)が増加
 - ・ガチフロキサシン 6 ⇒ 8 (+2)
- 後発医薬品 **15,465百万円 (-12百万円)**
 - * 他社受託の売上は減少、自社販売の売上は増加
- 一般用医薬品等 **4,490百万円 (+307百万円)**
- ヘルスケア(スキンケア) **1,244百万円 (-105百万円)**

<適応範囲及び持分法の適用について>

連結子会社8社： 杏林製薬(株)
 Kyorin USA, Inc. Kyorin Europe GmbH
 ActivX Biosciences, Inc.
 キョーリン リメディオ(株)
 キョーリン メディカルサプライ(株)
 ドクタープログラム(株)
 キョーリン製薬グループ工場(株)

持分法適用会社1社： 日本理化学薬品(株)

損益計算書の概要：連結一②

(単位：百万円)

	15年3月期		16年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	113,121	100.0%	119,483	100.0%	+5.6%	+6,362
売上原価	46,598	41.2%	47,360	39.6%	+1.6%	+762
売上総利益	66,522	58.8%	72,122	60.4%	+8.4%	+5,600
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	51,785 (13,514)	45.8% 11.9%	52,486 (13,019)	43.9% 10.9%	+1.4% -3.7%	+701 -495
営業利益	14,737	13.0%	19,636	16.4%	+33.2%	+4,899
営業外収益	768	0.7%	531	0.4%	-30.9%	-237
営業外費用	16	0.0%	172	0.1%	+975.0%	+156
経常利益	15,490	13.7%	19,995	16.7%	+29.1%	+4,505
特別利益	4,505	4.0%	1,940	1.6%	-56.9%	-2,565
特別損失	2,434	2.2%	3,120	2.6%	+28.2%	+686
税金等調整前 当期純利益	17,561	15.5%	18,815	15.7%	+7.1%	+1,254
法人税・住民税 及び事業税	4,712	4.2%	5,191	4.3%	+10.2%	+479
法人税等調整額	785	0.7%	-15	-0.0%	-	-800
親会社株主に帰属 する当期純利益	12,064	10.7%	13,639	11.4%	+13.1%	+1,575

<当期のポイント>

◆原価率：前年比1.6ポイント低下
(41.2%→39.6%)

【低下要因】ライセンス契約一時金

◆研究開発費率：前年比1.0ポイント低下
(11.9%→10.9%)

* 135億円→130億円 (5億円減少)
わたらせ創薬センター開設の費用増加(減価償却費、移転費用)
KRP-114V(共同開発契約等)の費用等が減少

◆販管費率(除くR&D費)：前年比0.8ポイント低下
(33.8%→33.0%)

* 383億円→395億円 (12億円増加)
特許等使用料、販売費等の増加

■営業利益 19,636百万円 (+4,899百万円)

* 営業利益率は16.4%と3.4ポイント上昇

■親会社株主に帰属する当期純利益

13,639百万円 (+1,575百万円)

特別利益19億円、特別損失31億円

■配当

58円00銭/株(うち、中間配当20円/株)

配当性向31.8%

貸借対照表の概要：連結

(単位：百万円)

	15年3月期末	
	実績	構成比
流動資産	129,064	70.4%
現金及び預金	30,652	—
受取手形及び売掛金	47,007	
有価証券	17,867	
棚卸資産	25,929	
その他流動資産	7,607	
固定資産	54,318	29.6%
有形固定資産	19,374	—
無形固定資産	1,184	
投資その他	33,760	
資産合計	183,383	100.0%

16年3月期末		
実績	構成比	前期末増減
138,483	70.0%	+9,419
45,712	—	—
48,296		
5,989		
27,665		
10,818		
59,342	30.0%	+5,024
22,788	—	—
1,201		
35,353		
197,825	100.0%	+14,442

流動負債	27,773	15.1%
支払手形及び買掛金	11,259	—
その他流動負債	16,513	
固定負債	7,009	3.8%
負債合計	34,782	19.0%
株主資本	140,518	76.6%
その他の包括利益累計額	8,082	4.4%
その他有価証券評価差額金	7,798	—
為替換算調整勘定	168	
退職給付に係る調整累計額	115	
純資産合計	148,600	81.0%
負債及び純資産合計	183,383	100.0%

28,052	14.2%	+279
11,792	—	—
16,259		
12,723	6.4%	+5,714
40,776	20.6%	+5,994
149,808	75.7%	+9,290
7,241	3.7%	-841
10,372	—	—
160		
-3,292		
157,049	79.4%	+8,449
197,825	100.0%	+14,442

<当期のポイント>

■ 流動資産：+9,419百万円

- ・現金及び預金の増加 (+15,060百万円)
- ・受取手形及び売掛金の増加 (+1,289百万円)
- ・有価証券の減少 (-11,878百万円)
- ・棚卸資産の増加 (+1,736百万円)

■ 固定資産：+5,024百万円

- ・有形固定資産の増加 (+3,414百万円)
- ・無形固定資産の増加 (+17百万円)
- ・投資その他の増加 (+1,593百万円)

■ 流動負債：+279百万円

- ・支払手形及び買掛金の増加 (+533百万円)
- ・その他流動負債の減少 (-254百万円)

■ 固定負債：+5,714百万円

主な業績項目の推移：連結

(単位:百万円)	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期 (予想)
売上高 (海外売上)	103,232 (2,015)	107,031 (2,400)	111,400 (1,849)	113,121 (1,032)	119,483 (5,586)	120,000 (3,800)
売上原価 (売上原価率)%	36,926 (35.8%)	40,133 (37.5%)	43,047 (38.6%)	46,598 (41.2%)	47,360 (39.6%)	—
販売費及び一般管理費 (販管費率)%	51,842 (50.2%)	48,949 (45.7%)	50,744 (45.6%)	51,785 (45.8%)	52,486 (43.9%)	—
うち研究開発費 (研究開発費率)%	13,964 (13.5%)	11,059 (10.3%)	11,359 (10.2%)	13,514 (11.9%)	13,019 (10.9%)	13,500 (11.3%)
営業利益 (営業利益率)%	14,464 (14.0%)	17,948 (16.8%)	17,607 (15.8%)	14,737 (13.0%)	19,636 (16.4%)	14,500 (12.1%)
経常利益 (経常利益率)%	15,275 (14.8%)	18,676 (17.4%)	18,281 (16.4%)	15,490 (13.7%)	19,995 (16.7%)	14,900 (12.4%)
当期純利益 (当期純利益率)%	9,231 (8.9%)	12,422 (11.6%)	12,025 (10.8%)	12,064 (10.7%)	13,639 (11.4%)	10,700 (8.9%)
一株当たり当期利益(円)	123.54円	166.25円	160.95円	161.63円	184.28円	145.23円
資本金	700	700	700	700	700	—
総資産	145,673	154,968	169,378	183,383	197,825	—
株主資本	117,931	126,985	135,273	140,518	149,808	—
純資産	118,201	129,099	137,821	148,600	157,049	—
一株当たり純資産(円)	1,581.94円	1,727.86円	1,844.61円	2,009.45円	2,131.67円	—
自己資本利益率%	8.0%	10.0%	9.0%	8.4%	8.9%	—
自己資本比率%	81.1%	83.3%	81.4%	81.0%	79.4%	—
人員(人)	2,297人	2,444人	2,452人	2,445人	2,420人	—
設備投資	1,952	6,576	6,500	2,655	7,218	4,700
減価償却費	2,363	2,738	3,153	3,053	3,730	3,900

損益計算書の概要：杏林製薬一①

(単位:百万円)

<当期のポイント>

	15年3月期		16年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	98,452	100.0%	106,390	100.0%	+8.1%	+7,938
医薬品事業	98,452	100.0%	106,390	100.0%	+8.1%	+7,938
◆新医薬品	88,852	90.2%	95,824	90.1%	+7.8%	+6,972
○国内	88,012	89.4%	90,480	85.0%	+2.8%	+2,468
○海外	840	0.9%	5,343	5.0%	+536.1%	+4,503
◆後発医薬品	6,404	6.5%	6,878	6.5%	+7.4%	+474
◆一般用医薬品他	3,195	3.2%	3,686	3.5%	+15.4%	+491

	対前年	
■ 売上高	106,390百万円	(+7,938百万円)
● 国内新医薬品	90,480百万円	(+2,468百万円)
	15.3実績	16.3実績 (億円)
・キプレス	412	⇒ 441 (+29)
・フルティフォーム	36	⇒ 72 (+36)
・ウリトス	73	⇒ 75 (+2)
・ムコダイン	140	⇒ 130 (-10)
・ペンタサ	172	⇒ 161 (-11)
● 海外新医薬品	5,343百万円	(+4,503百万円)
・ガチフロキサシン	6	⇒ 8 (+2)
● 後発医薬品	6,878百万円	(+474百万円)
・キョーリン リメディオ製品の売上増		
● 一般用医薬品他	3,686百万円	(+491百万円)
・ミルトン	20	⇒ 21 (+1)
・ルビスタ	5	⇒ 8 (+3)

損益計算書の概要：杏林製薬一②

(単位：百万円)

	15年3月期		16年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	98,452	100.0%	106,390	100.0%	+8.1%	+7,938
売上原価	38,951	39.6%	40,798	38.3%	+4.7%	+1,847
売上総利益	59,501	60.4%	65,591	61.7%	+10.2%	+6,090
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	47,349 (12,843)	48.1% (13.0%)	48,129 (12,421)	45.2% (11.7%)	+1.7% -3.3%	+780 -422
営業利益	12,151	12.3%	17,461	16.4%	+43.7%	+5,310
営業外収益	964	1.0%	652	0.6%	-32.4%	-312
営業外費用	0	0.0%	127	0.1%	-	+127
経常利益	13,115	13.3%	17,985	16.9%	+37.1%	+4,870
特別利益	4,505	4.6%	1,828	1.7%	-59.4%	-2,677
特別損失	2,405	2.4%	3,037	2.9%	+26.3%	+632
税引前当期純利益	15,215	15.5%	16,776	15.8%	+10.3%	+1,561
法人税・住民税 及び事業税	3,998	4.1%	4,600	4.3%	+15.1%	+602
法人税等調整額	804	0.8%	62	0.1%	-92.3%	-742
当期純利益	10,412	10.6%	12,113	11.4%	+16.3%	+1,701

<当期のポイント>

◆原価率：前年比1.3ポイント低下
(39.6%→38.3%)

【低下要因】ライセンス契約一時金

◆研究開発費率：前年比1.3ポイント低下
(13.0%→11.7%)

* 128億円→124億円(4億円減少)
わたらせ創薬センター開設の費用増加(減価償却費、移転費用)
KRP-114V(共同開発契約等)の費用等が減少

◆販管費率(除くR&D費)：前年比1.4ポイント低下
(35.0%→33.6%)

■営業利益 17,461百万円 (+5,310百万円)

* 営業利益率は16.4%と4.1ポイント上昇

■当期純利益 12,113百万円 (+1,701百万円)

貸借対照表の概要：杏林製薬

(単位:百万円)

	15年3月期末	
	実績	構成比
流動資産	97,822	68.4%
現金及び預金	14,587	
売掛金	43,220	
有価証券	12,804	—
棚卸資産	21,763	
その他流動資産	5,447	
固定資産	45,145	31.6%
有形固定資産	12,324	
無形固定資産	376	—
投資その他	32,444	
資産合計	142,967	100.0%

16年3月期末		
実績	構成比	前期末増減
102,859	66.1%	+5,037
22,326		
44,374		
5,905	—	—
21,774		
8,477		
52,778	33.9%	+7,633
14,866		
486	—	—
37,424		
155,637	100.0%	+12,670

<当期のポイント>

■流動資産： +5,037百万円

- ・現金及び預金の増加 (+7,739百万円)
- ・売掛金の増加 (+1,154百万円)
- ・有価証券の減少 (-6,899百万円)
- ・棚卸資産の増加 (+11百万円)

■固定資産： +7,633百万円

- ・有形固定資産の増加 (+2,542百万円)
- ・無形固定資産の増加 (+110百万円)
- ・投資その他の増加 (+4,980百万円)

流動負債	20,958	14.7%
買掛金	8,323	
その他流動負債	12,635	—
固定負債	3,762	2.6%
負債合計	24,720	17.3%
株主資本	110,534	77.3%
評価・換算差額等	7,712	5.4%
純資産合計	118,246	82.7%
負債及び純資産合計	142,967	100.0%

20,102	12.9%	-856
7,673		
12,428	—	—
7,925	5.1%	+4,163
28,027	18.0%	+3,307
117,300	75.4%	+6,766
10,309	6.6%	+2,597
127,610	82.0%	+9,364
155,637	100.0%	+12,670

■流動負債： -856百万円

- ・買掛金の減少 (-650百万円)

■固定負債： +4,163百万円

主な業績項目の推移：杏林製薬

(単位:百万円)	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期 (予想)
売上高 (海外売上)	93,697 (1,904)	95,894 (2,277)	97,662 (1,650)	98,452 (840)	106,390 (5,343)	106,400 (3,600)
売上原価 (売上原価率)%	32,046 (34.2%)	33,868 (35.3%)	35,119 (36.0%)	38,951 (39.6%)	40,798 (38.3%)	—
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	47,679 (50.9%)	44,898 (46.8%)	47,175 (48.3%)	47,349 (48.1%)	48,129 (45.2%)	—
うち研究開発費 (研究開発费率)%	13,472 (14.4%)	10,733 (11.2%)	11,064 (11.3%)	12,843 (13.0%)	12,421 (11.7%)	12,900 (12.1%)
営業利益 (営業利益率)%	13,971 (14.9%)	17,127 (17.9%)	15,368 (15.7%)	12,151 (12.3%)	17,461 (16.4%)	11,700 (11.0%)
経常利益 (経常利益率)%	15,126 (16.1%)	18,209 (19.0%)	16,230 (16.6%)	13,115 (13.3%)	17,985 (16.9%)	12,200 (11.5%)
当期純利益 (当期純利益率)%	9,274 (9.9%)	11,931 (12.4%)	10,823 (11.1%)	10,412 (10.6%)	12,113 (11.4%)	8,900 (8.4%)
一株当たり当期利益(円)	124.88円	160.66円	145.74円	140.20円	163.11円	—
資本金	4,317	4,317	4,317	4,317	4,317	—
総資産	121,985	121,881	130,997	142,967	155,637	—
株主資本	101,652	100,586	106,211	110,534	117,300	—
純資産	102,177	102,844	109,606	118,246	127,610	—
一株当たり純資産(円)	1,375.79円	1,384.77円	1,475.82円	1,592.16円	1718.23円	—
自己資本利益率%	9.4%	11.6%	10.2%	9.1%	9.9%	—
自己資本比率%	83.8%	84.4%	83.7%	82.7%	82.0%	—
人員(人)	1,798人	1,797人	1,780人	1,771人	1,731人	—
設備投資	1,425	1,507	4,763	1,125	5,059	1,800
減価償却費	1,790	1,743	1,743	1,667	2,241	2,300

報告セグメントごとの売上高および利益

(単位:億円)

	売上高		セグメント利益	
	金額	対前年	金額	対前年
合計	1,195	+64	196	+49
医薬品事業計	1,182	+64	195	+49
◆新医薬品	983	+62		
○国内	927	+16		
○海外	56	+46		
◆後発医薬品	155	0		
◆一般用医薬品他	45	+3		
ヘルスケア事業計	12	-1	-1	-1
調整額	-	-	2	0

(注)「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」を適用し、報告セグメントは【医薬品事業】【ヘルスケア事業】としております

2017年3月期 連結業績予想

(単位:百万円)

	16年3月期 (実績)	17年3月期 (予想)	対前年	
			増減額	増減率(%)
売上高	119,483	120,000	+517	+0.4
医療用医薬品事業 [※]	113,970	114,000	+30	+0.0
◆新医薬品	98,506	92,400	-6,105	-6.2
国内	92,920	88,500	-4,419	-4.8
海外	5,586	3,800	-1,786	-32.0
◆後発医薬品	15,465	21,500	+6,035	+39.0
ヘルスケア事業 [※]	5,512	6,000	+488	+8.9
営業利益	19,636	14,500	-5,136	-26.2
経常利益	19,995	14,900	-5,095	-25.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	13,639	10,700	-2,939	-21.6

※売上高のセグメントにおける内容を2017年3月期より変更します。

変更後の「医療用医薬品事業」の内容は新医薬品・後発医薬品で、「ヘルスケア事業」はスキンケア・環境衛生・一般用医薬品他で構成しています。

2016年3月期 主要製品売上の状況

(単位:億円)

		12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期		17年3月期 (予想)
						実績	前同比(%)	
国内 新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	368	396	402	412	441	+6.9	333
	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	—	—	6	36	72	+99.8	129
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	63	75	81	73	75	+2.8	78
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	215	191	184	140	130	-7.3	108
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	180	176	186	172	161	-6.1	158
	デスロラタジン(一般名) (アレルギー性疾患治療薬)	—	—	—	—	—	—	19
一般用 医薬品	ミルトン (哺乳びん・乳首消毒剤)	19	20	21	20	21	+5.2	21

研究開発費・設備投資・減価償却費の状況(連結)



健康はキョーリンの願いです。

(単位:百万円)

	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期		17年3月期 (予想)
					実績	増減比	
研究開発費	13,964	11,059	11,359	13,514	13,019	-3.7%	13,500
設備投資	1,952	6,576	6,500	2,655	7,218	171.8%	4,700
減価償却費	2,363	2,738	3,153	3,053	3,730	22.1%	3,900

設備投資の詳細 (実績/予想)

(単位:億円)

	15年3月期 (実績)	16年3月期 (実績)	17年3月期 (予想)
工場設備	15	24	26
管理・販売設備	3	4	5
研究用設備	8	44	16

開発品一覧①(2016年5月12日現在)

PhⅢ ~承認

※:前回(2016年3月期 第3四半期 2月3日発表)からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
PhⅢ (15年1月)	【米国、欧州、他】 米国ルク社 :PhⅡ終了	KRP-114V	過活動膀胱	米国 ルク社	膀胱のβ ₃ 受容体に作用する事で、膀胱弛緩作用を増強し、頻尿の改善が期待される	米国ルク社とライセンス契約 (14年7月) ※キッセイ薬品工業(株)と 共同開発・共同販売に関 する契約を締結(16年3 月)
PhⅢ (15年4月)		KRP-AM1977X (経口剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社	①薬剤耐性グラム陽性菌(MRSAを含む)に対し て優れた抗菌力 ②優れた体内動態(経口吸収、組織移行) ③前臨床試験で安全性はクリア、高い安全性を 期待	
※PhⅢ (16年3月)		KRP-AM1977Y (注射剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社		

参考

開発段階	一般名	薬効	特徴	備考
MSD(株)により申請(15年10月)	デスロラタジン	アレルギー性鼻炎 蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、 皮膚そう痒症)に伴うそう痒	第二世代ヒスタミンH1受容体拮抗薬	MSD(株)の関連会社と日 本国内における共同販 売契約を締結(14年11月)

開発品一覧②(2016年5月12日現在)

POCプロジェクト(Ph I ~Ph II)

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph II (再) (15年8月)	ルツ社 Ph III	KRP-209	耳鳴	ドイツ ルツ社	NMDA受容体拮抗作用及びニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される	ルツ社とライセンス契約 (09年11月)
Ph I / II (15年7月)	【米国】桃太郎源 : Ph I / II 前立腺がん(14年5月)	Ad-SGE-REIC	悪性胸膜中皮腫	岡山大学	岡山大学で発見された新規がん抑制遺伝子REICを使用する遺伝子治療薬。がん細胞選択的アポトーシスと抗がん免疫の活性化を誘導することが期待される	産学共同実用化開発事業[NexTEP]への採択 (14年6月)

開発品一覧③(2016年5月12日現在)

導出品の状況

開発段階／海外	製品名・ 開発コード	導出先	薬効	起源	特徴	備考
Ph I	KRP-203	スイス ノバルティス	移植片対宿主病 (GvHD)	自社	S1P受容体アゴニスト。免疫調節剤	ノバルティスとライセンス契約 (06年2月) GvHDでの開発集中を 決定(15年11月公表)
前臨床	—	米国 ブリストル・マイヤーズ スクイブ社	非開示	自社	FPR2作動薬。主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す	BMS社とライセンス契約 (15年12月)